(27) しゅんぎく

病害虫	防除法	参考事項
炭疽病	(耕種的・物理的防除) 1 連作を避ける。 2 種子は 50℃温湯中に 20 分間又は 55℃温湯中に 10 分間浸漬し、風乾したものをを用いる。 3 1 年以上経過した種子を用いる。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 アミスター 20フロアブル又はストロビーフロアブルを散布する。	
葉枯病	(耕種的・物理的防除) 1 連作を避ける。 2 炭疽病に準じ種子消毒する。 3 発病したら速やかに病葉を抜き取る。	
べと病	(耕種的・物理的防除) 1 炭疽病に準じ種子消毒する。	
腐敗病	(耕種的・物理的防除) 1 連作を避ける。 2 発病株は速やかに抜き取る。	
モザイク病	(耕種的・物理的防除) 1 発病株は速やかに抜き取る。	

病害虫	防除法	参考事項																																	
アブラムシ類	<p>(耕種的・物理的防除)</p> <ol style="list-style-type: none"> 育苗時からアブラムシ類の発生に注意する。黄色粘着テープを施設の出入口や開口部の近く、若しくは苗の近くにつるし、有翅成虫が飛来していないか確認する。 近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。 施設では、側窓や天窓などの開口部に寒冷紗や防虫ネット等を張り、成虫の飛来を防ぐ。 マルチをする場合は、シルバーポリマルチなど忌避効果のあるものを使用する。 <p>(薬剤防除) 農薬登録情報</p> <ol style="list-style-type: none"> 生物的防除 <table border="1" data-bbox="368 618 1134 1055"> <thead> <tr> <th>薬剤名(天敵名)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>アフィパール (コレマンアブラバチ)</td><td>施設のみ</td></tr> <tr><td>コレトップ (コレマンアブラバチ)</td><td>施設のみ</td></tr> <tr><td>チャバラ (チャバラアブラコバチ)</td><td>施設のみ</td></tr> <tr><td>テントップ (ナミテントウ)</td><td>施設のみ</td></tr> <tr><td>カメノコS (ヒメカメノコテントウ)</td><td>施設のみ</td></tr> <tr><td>ゴッツA (ペキロマイセス テヌイセス)</td><td>施設のみ</td></tr> <tr><td>ブリファード水和剤 (ペキロマイセス フモソロセウス)</td><td>ワタアブラムシのみ</td></tr> </tbody> </table> 気門封鎖剤 <table border="1" data-bbox="368 1122 751 1429"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>エコピタ液剤</td></tr> <tr><td>オレート液剤</td></tr> <tr><td>サフオイル乳剤</td></tr> <tr><td>サンクリスタル乳剤</td></tr> <tr><td>粘着くん液剤</td></tr> <tr><td>フーモン</td></tr> <tr><td>ムシラップ</td></tr> </tbody> </table> 下記薬剤のいずれかを散布する。 <table border="1" data-bbox="368 1496 751 1845"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>アクタラ顆粒水溶剤</td></tr> <tr><td>スタークル/アルバリン顆粒水溶剤</td></tr> <tr><td>ダントツ水溶剤</td></tr> <tr><td>モスピラン顆粒水溶剤</td></tr> <tr><td>ウララDF</td></tr> <tr><td>アクタラ粒剤5</td></tr> <tr><td>ダントツ粒剤</td></tr> <tr><td>ベストガード粒剤</td></tr> </tbody> </table> 	薬剤名(天敵名)	備考	アフィパール (コレマンアブラバチ)	施設のみ	コレトップ (コレマンアブラバチ)	施設のみ	チャバラ (チャバラアブラコバチ)	施設のみ	テントップ (ナミテントウ)	施設のみ	カメノコS (ヒメカメノコテントウ)	施設のみ	ゴッツA (ペキロマイセス テヌイセス)	施設のみ	ブリファード水和剤 (ペキロマイセス フモソロセウス)	ワタアブラムシのみ	薬剤名	エコピタ液剤	オレート液剤	サフオイル乳剤	サンクリスタル乳剤	粘着くん液剤	フーモン	ムシラップ	薬剤名	アクタラ顆粒水溶剤	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	ダントツ水溶剤	モスピラン顆粒水溶剤	ウララDF	アクタラ粒剤5	ダントツ粒剤	ベストガード粒剤	<p>○ 生物農薬の使用上の留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 天敵昆虫製剤 <ol style="list-style-type: none"> 天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。 アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。 天敵微生物製剤 <ol style="list-style-type: none"> 使用期間中にやむをえず他剤を併用する場合は、農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」を参照し、影響の少ない農薬を選択する。 アブラムシ類の生息密度が高まってからの散布では十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの処理が重要である。
薬剤名(天敵名)	備考																																		
アフィパール (コレマンアブラバチ)	施設のみ																																		
コレトップ (コレマンアブラバチ)	施設のみ																																		
チャバラ (チャバラアブラコバチ)	施設のみ																																		
テントップ (ナミテントウ)	施設のみ																																		
カメノコS (ヒメカメノコテントウ)	施設のみ																																		
ゴッツA (ペキロマイセス テヌイセス)	施設のみ																																		
ブリファード水和剤 (ペキロマイセス フモソロセウス)	ワタアブラムシのみ																																		
薬剤名																																			
エコピタ液剤																																			
オレート液剤																																			
サフオイル乳剤																																			
サンクリスタル乳剤																																			
粘着くん液剤																																			
フーモン																																			
ムシラップ																																			
薬剤名																																			
アクタラ顆粒水溶剤																																			
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤																																			
ダントツ水溶剤																																			
モスピラン顆粒水溶剤																																			
ウララDF																																			
アクタラ粒剤5																																			
ダントツ粒剤																																			
ベストガード粒剤																																			

病害虫	防除法	参考事項																								
ハモグリバエ類	<p>(薬剤防除) 農薬登録情報</p> <p>1 下記薬剤のいずれかを散布する。</p> <table border="1" data-bbox="368 280 1133 745"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エビセクト水和剤</td> <td>マメハモグリバエで登録</td> </tr> <tr> <td>アクタラ顆粒水溶剤</td> <td>ナモグリバエで登録</td> </tr> <tr> <td>ダントツ水溶剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アフファーム乳剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディアナSC</td> <td></td> </tr> <tr> <td>カスケード乳剤</td> <td>マメハモグリバエで登録</td> </tr> <tr> <td>トリガード液剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクタラ粒剤5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタークル/アルバリン粒剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ダントツ粒剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ベストガード粒剤</td> <td>マメハモグリバエで登録</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名	備考	エビセクト水和剤	マメハモグリバエで登録	アクタラ顆粒水溶剤	ナモグリバエで登録	ダントツ水溶剤		アフファーム乳剤		ディアナSC		カスケード乳剤	マメハモグリバエで登録	トリガード液剤		アクタラ粒剤5		スタークル/アルバリン粒剤		ダントツ粒剤		ベストガード粒剤	マメハモグリバエで登録	
薬剤名	備考																									
エビセクト水和剤	マメハモグリバエで登録																									
アクタラ顆粒水溶剤	ナモグリバエで登録																									
ダントツ水溶剤																										
アフファーム乳剤																										
ディアナSC																										
カスケード乳剤	マメハモグリバエで登録																									
トリガード液剤																										
アクタラ粒剤5																										
スタークル/アルバリン粒剤																										
ダントツ粒剤																										
ベストガード粒剤	マメハモグリバエで登録																									
ネキリムシ類	<p>(耕種的・物理的防除)</p> <p>1 幼虫の捕殺に努める。</p> <p>(薬剤防除) 農薬登録情報</p> <p>1 カルホス微粒剤Fを作条処理土壌混和する。</p> <p>2 ガードバイトAを株元に散布する。</p>																									
ハスモンヨトウ	<p>(予防に関する措置)</p> <p>1 防虫ネット等の使用により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。</p> <p>2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。</p> <p>3 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。</p> <p>4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。</p> <p>(判断、防除に関する措置)</p> <p>1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。</p> <p>2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。</p> <p>3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。</p> <p>4 作物残さを適切に処分する。</p> <p>(薬剤防除) 農薬登録情報</p> <p>1 交信かく乱剤</p> <table border="1" data-bbox="368 1563 751 1682"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヨトウコンーH</td> </tr> <tr> <td>コンフューザーV</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 BT剤</p> <table border="1" data-bbox="368 1749 751 1939"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クオークフロアブル</td> </tr> <tr> <td>サブリーナフロアブル</td> </tr> <tr> <td>デルフィン顆粒水和剤</td> </tr> <tr> <td>フローバックDF</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 コテツフロアブル又はプレオフロアブルを散布する。</p>	薬剤名	ヨトウコンーH	コンフューザーV	薬剤名	クオークフロアブル	サブリーナフロアブル	デルフィン顆粒水和剤	フローバックDF																	
薬剤名																										
ヨトウコンーH																										
コンフューザーV																										
薬剤名																										
クオークフロアブル																										
サブリーナフロアブル																										
デルフィン顆粒水和剤																										
フローバックDF																										

病害虫	防除法	参考事項							
<p>ヨトウムシ</p>	<p>(予防に関する措置)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 防虫ネット等の使用により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。 3 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫 ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。 4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に 薬剤散布等を実施する。 3 作物残さを適切に処分する。 4 若齢幼虫期に捕殺に努める。 <p>(薬剤防除) 農薬登録情報</p> <p>1 BT 剤</p> <table border="1" data-bbox="368 741 751 1016"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>エスマルクDF</td></tr> <tr><td>クオークフロアブル</td></tr> <tr><td>サブリーナフロアブル</td></tr> <tr><td>チューンアップ顆粒水和剤</td></tr> <tr><td>トアロー水和剤CT</td></tr> <tr><td>フローバックDF</td></tr> </tbody> </table> <p>2 発生初期にカスケード乳剤を散布する。</p>	薬剤名	エスマルクDF	クオークフロアブル	サブリーナフロアブル	チューンアップ顆粒水和剤	トアロー水和剤CT	フローバックDF	
薬剤名									
エスマルクDF									
クオークフロアブル									
サブリーナフロアブル									
チューンアップ顆粒水和剤									
トアロー水和剤CT									
フローバックDF									
<p>センチュウ類</p>	<p>・ 共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照する。</p>								
<p>アザミウマ類</p>	<p>(薬剤防除) 農薬登録情報</p> <p>1 発生初期に以下の薬剤を散布する</p> <table border="1" data-bbox="368 1211 751 1375"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>アフファーム乳剤</td></tr> <tr><td>カスケード乳剤</td></tr> <tr><td>ディアナSC</td></tr> </tbody> </table>	薬剤名	アフファーム乳剤	カスケード乳剤	ディアナSC				
薬剤名									
アフファーム乳剤									
カスケード乳剤									
ディアナSC									
<p>ハクサイダニ</p>	<p>(薬剤防除) 農薬登録情報</p> <p>1 アディオン乳剤を散布する。</p>	<p>○ 夏は土壌中で卵で休眠する。12月頃から第1世代成虫、3～4月頃から第2世代成虫が発生する。</p>							